

# 熊本地域医療センターだより

通算190号

3月号

院長 杉田裕樹

令和3年(2021年)3月発行

熊本地域医療センター電話番号(代表) 096-363-3311 FAX 096-362-0222

2021

3

月号

## 熊本地域医療センター 理念

かかってよかった。  
紹介してよかった。  
働いてよかった。  
そんな病院をめざします。

## contents

当センター主催の 日本医師会生涯教育講座を終えて…	P1~2
「膵癌診療のトータルマネジメント」…	P2
退任挨拶…	P2
退任挨拶…	P3
コロナ禍の放射線部…	P3
患者画像データの安全な受け渡しのためお願い…	P4

## 当センター主催の日本医師会生涯教育講座を終えて

院長 <sup>すぎた</sup>杉田 <sup>ひろき</sup>裕樹



平素より大変お世話になっております。

昨年12月12日当センターにて日本医師会生涯教育講座を開催いたしました。全部で2部構成となっており第1部は当院感染対策部長藤井医師が

新型コロナウイルス感染症について、第2部は膵癌の診療について、初めに内科的立場から消化器内科田村医師が、次に外科的立場から当院外科の筆者、富安医師、廣田医師が講演を行いました。今回は新型コロナウイルス感染症の感染拡大対策のためオンライン配信という形式をとりました。計77名と多数の参加者となりました。オンライン講演会は当院では昨年10月の地域医療センター勉強会以来の2回目でしたのでやや不安な面がありましたが、ほぼ無事に終了いたしました。ただ若干音がずれる等の不具合のご意見を頂きました。これらのご意見を参考に、今後は改良していきたいと思っております。

筆者は「集学的治療にて膵癌に打ち勝て」というタイトルで当科における膵癌の外科的治療の実際を症例を上げて、また過去18年間の当院における外科治療の成績について提示いたしました。その内容を簡単にご紹介いたします。膵癌の死亡数は女性で3位、男性で4位と癌患者死亡原因の上位を占め、発見された時には切除不能である場合が多く予後不良な癌の一つですが、外科手術、化学療法、放射線療法等の集学的治療にて最近はその生存率が改善する傾向にあります。症例提示では1例目に膵頭部

癌で当初切除不能でしたが、化学療法が著効したことにより外科的切除が可能となり (conversion surgery)、外科的切除術後4年半の無再発症例を提示しました。2例目はリンパ節に多数転移していた膵体部癌で外科的切除および補助化学療法により術後ほぼ5年間無再発の症例を示しました。また過去18年間に当院にて外科的切除を行った浸潤性膵管癌180症例におきまして術後生存率を検討しますと、その5年生存率は38.5%であり、中央値は32か月でした。UICCのStage別の5年生存率はpStage IA (n=5) は100%、pStage IB (n=3) は50%、pStage IIA (n=50) は56.7% pStage IIB (n=77) は36.2%、pStage III (n=45) は12.5%でした。術後補助化学療法を147例 (81.7%) に行っており、後ろ向き研究ではありますが補助化学療法を行った場合は、行わない場合に比べて有意に予後が良いという結果でした。生存率については、以前と比較すると格段に改善しています。術後補助化学療法に加え術前化学放射線療法の進歩および再発後の化学療法の進歩が大きく寄与していると考えています。また術前化学療法の有効性についてのエビデンスも出てまいりましたので今後は期待ができると思っております。ただし、当院の5年無再発生存率は30%程度であり、いまだに多くの症例で再発を来してくる現状を見ると、早期発見および新たな治療法の開発に加えて、緩和ケアを含めた再発症例への対応も大変重要であると感じております。

また、膵癌ガイドラインには死亡率の低さから手術症例数が多い施設にて外科的治療を受けることを

推奨されておりますように、当センターでは多数の膵癌手術 / 膵切除を行っており、膵頭十二指腸切除術後死亡率は1.4%と全国平均(2.8%)と比較し低率であることも強調したいと思います。というものでした。

当院は膵疾患を多く治療している病院の一つです。今後とも膵癌のみならず膵腫瘍全般をご紹介いただければ幸いです。

最後に、次回当院が主催する日本医師会生涯教育

講座の開催は2年後の予定ですが、そのころまでにこのコロナ禍が終息し、集会による開催が可能となることを祈念しております。



## 日本医師会生涯教育講座 「膵癌診療のトータルマネージメント」

とみやす しんじろう  
外科部長 富安 真二郎



12月12日(土)、熊本県医師会令和2年度日本医師会生涯教育講座がオンライン配信されました。今回は膵癌特集で私は「膵癌診療のトータルマネージメント」の題目で講演致しました。

内容は、(1)膵癌の動向・特徴、(2)膵臓膵癌の診断と治療、(3)周術期管理の取り組み、(4)膵癌化学療法の特ピック、(5)緩和医療と5つの項目でした。

膵癌は難治がんの代表で、自覚症状が出にくく、7割以上の方は根治切除不可能な状態で発見されます。さらに、根治切除が行えても、8割以上の方が再発し、膵癌全体での5年生存率は10%以下です。膵癌は日本でも増加しており、がんの中で罹患者数

第6位、死亡者数4位となっています。

私の講演では膵癌の疫学・診断・治療戦略などを一通りお話させて頂き、最近の周術期管理、膵癌化学療法に関する触れさせて頂きました。

話の中心は支持・緩和療法でしたので、胆道・消化管ドレナージから化学療法の終了の指標に関して私見を交えてご説明致しました。悪液質になると栄養支持療法や運動療法が非常に重要で、多職種によるチーム医療を実践し集学的治療の重要性を述べさせて頂きました。

当院では、難治がんの膵癌に、外科医が中心となり、抗がん剤治療、外科治療や緩和ケア・終末期医療まで、消化器内科医、緩和ケア医や医療スタッフと協力しトータルマネージメントを行っています。最後にこれからも熊本地域医療センターの「膵癌治療」をよろしくお願い申し上げます。

## 退任挨拶



腎臓内科

まつお なおみ  
松尾 尚美

2019年4月から本年1月末まで腎臓内科外来を担当させていただきました。腎臓内科は週1回の外来のみであったため、地域の先生方にご紹介いただく際や院内の先生方にコンサルトいただく際には制限が多くご迷惑をおかけしたかと思いますが、慢性腎臓病の発症、進行予防に少しでも貢献できていればと願うばかりです。

また、外来時には、他科の先生方にご相談させていただく機会や共診をさせていただく機会も多く、快くご相談に乗っていただき、とてもありがたく感じました。外来や病棟スタッフの方々も、オー

ダー方法が分からなかったり、病棟で道に迷ったりしているとすかさず声をかけてくださり、ありがたく、雰囲気の良い病院だと感じると同時に安心して勤務を行うことができ、改めて感謝申し上げます。

外来が軌道に乗ってきたかなというところでの交代となり大変残念に思います。また今後、勤務やご紹介等させていただく機会があるかもしれませんが、その際にはどうぞよろしくお願い致します。

最後になりましたが、熊本地域医療センターの益々のご発展をお祈り申し上げます。

# 退任挨拶



看護部長

おおひら くみ  
大平 久美

1982年4月1日。煉瓦模様の病院らしくない（いい意味で）景観を呈する熊本地域医療センターに、看護師としての第一歩を踏み出しました。不器用な私は、諸先輩方に迷惑のかけ通しでした。あれから40回目の春が訪れ、この度、無事定年を迎えることになりました。長い間お世話になりました。このコーナーは、在職期間を顧みて皆様に感謝と、心に響くメッセージをお届けする場ですが、こみ上げる惜別の思いに、謝辞を的確に表

現できるほどの筆力がありません。ですから当院での晩年を中心に回顧させていただきます。看護部長室での執務期間は副部長時代を含め10年です。そこで直面したのが、人材確保問題でした。施設基準を満たす必要に迫られ、採用面接を繰り返すこと30回／年。それでも更新し続ける離職率。このような課題を抱えた看護部の長という大役を拝命したのは、2017年のことでした。就任を機に看護部の使命について、思いを巡らせました。そして「看護部の使命は病院理念の具現化に他ならない」と結論づけました。幸い当院の病院理念は、当時の院長

「廣田先生」により、親しみ深く馴染みやすいフレーズにリニューアルされていました。

看護部の使命を果たすべく、理念の一部を引用し「働いてよかった。働き続けたいと思える組織になる」「人材（財）豊富な組織になる」と将来像を掲げ、看護部の向かうべき方向を示しました。そして「定年までの4年間で成就したい」と、私の夢を師長たちに語りました。11名の師長とそれに続く200余名の仲間の手により、夢が叶えられました。働きやすさのバロメーター：離職率と残業時間、いずれも低減しました。

この成果は、日本看護協会の「看護業務の効率化先進事例アワード2019（厚労省委託事業）」で最優秀賞を受賞。病院理念の具現化にリーチがかかり、華やかな幕引きを期待していた矢先、コロナの襲来に見舞われました。暗中模索が続く中、コロナ禍にあっても病院理念の具現化に照準を充て、リソースを見事にマネジメントする師長たちに救われました。コロナが収束した暁には、更に強靱な看護部組織になっていることでしょう。

今後は、聡明でスマートな意思決定ができる吉田節子さんにバトンを渡します。春の訪れと共に、明るい未来を看護部に、否、病院全体に届けてくれると思います。私は一市民として、気高い使命感でコロナに対峙する皆様に、エールを送り続けます。39年間本当にありがとうございました。

## コロナ禍の放射線部

放射線部 ぶくしま としかず  
福島 敏和



平素より先生方には、放射線検査をご依頼いただきありがとうございます。さて、今回はコロナ禍の放射線部という事で、現状のご報告をさせていただきます。

検査機器に関しましては、検査毎に、装置本体はもとより脱衣カゴやドアノブに至る

まで、またMRに関しては使用したコイルにいたるまで、すべて環境清拭用ワイプ等を使用し、拭き取り清掃を行っております。キーボード等に触れる前後はその都度手指消毒するのは当然です。習慣づいたらあまり苦にもならなくなりました。患者さんに少しでも安心安全に検査を受けて頂くためですので、スタッフ一同徹底して行っています。また、唯一マスクを外す昼食時は、食事休憩が重ならない様にできる限り時間をずらし、また技師室の机には、飛沫感染対策としてアクリルパーティションを設置し、感染リスクの軽減を図っています。

少し大袈裟かも知れませんが、私たちの仕事はある意味「一期一会」だと思っています。私は常々患者さんと接するときは、まずは笑顔で接したいと思っています。笑顔は愛想よく見せるためだけのもの

のではなく、笑顔には、「相手の警戒心を解いて、緊張を緩める」といった心理的な効果があると思います。患者さんは心配や緊張のなか検査にいらっしゃっていますので…。「笑顔」は相手の心の緊張を解かす第1歩です。しかし、このコロナ禍で常時マスクを着用していますので、お互いの表情が分かりづらいわけですが、相手との表情コミュニケーションという観点では、口元は非常に大切です。しかし、顔の下半分、口元を隠すというのがマスクなわけですので…。なので、出来る限り余裕ある穏やかな雰囲気、優しく丁寧な言葉（口調や声のトーンなどを考え）で患者さんと接するように心がけています。今後も放射線部一同、患者さんや検査をご依頼頂いた先生方に信頼が得られるよう、常にマスクの下の笑顔と優しい言葉遣いで、安心安全な医療提供に努めて参ります。

最後に、20年間使用しました1.5テスラMR装置の更新工事が始まっています。フィリップス社製の最新型装置が4月5日から稼働予定です。先生方には予約が直ぐに入りづらく、ご迷惑をおかけしているかとも思いますが、この場をお借りしてお詫び申し上げます。

今後とも放射線部をどうぞ宜しく願い申し上げます。

# 患者画像データの安全な受け渡しのためのお願い

放射線・内視鏡部門運営委員会 **まつかわ 松川** **つや 哲也**



いつも患者さんをご紹介頂きありがとうございます。地域医療センター便りに2ヶ月連続の登場となりますが、今回は放射線・内視鏡部門運営委員会からのお願いで文章を書かせてもらっています。医師会の先生方は、DICOM（ダイコムと呼びます）という用語を

ご存じでしょうか。DICOMとはDigital Imaging and Communications in Medicineの頭文字を取った名称であり、医用画像・検査情報データの規格および、それを通信・印刷・保存・検索するための国際標準規格として定められたものです。単純写真、CT、MRI、超音波などをデジタルデータとして病院間でやりとりをする場合、多くはこのDICOM画像が使用されています。DICOM画像には表示されている画像以外に患者名、ID番号、生年月日、撮影日、撮像施設、撮像機器など多くの情報がDICOMタグとして含まれており、データ移行をする画像が本当に目的とする患者さんの画像データかどうか確認することができます。

一方、画像データとして有名なJPEG画像はJoint Photographic Experts Groupの頭文字を取ったものであり、このJPEG画像には見たままの画像情報しか存在しません。画面に入力された患者名以外DICOM画像のように患者さんを確認する情報をもってならず、医用画像のやりとりには推奨されていません。しかし、現在内視鏡機器の多くは、まだDICOMに対応していない機器が

多く、内視鏡画像の病院間でのやりとりだけはJPEG画像になっていることが現状です。

当院では多くの紹介患者さんの画像データの取り込み作業をしていますが、その中で紹介患者さんが持ち込んだCDに間違っただけのデータが書き込まれていた事例を過去に数件経験しています。その際は、間違いがあることをDICOMタグを確認することで気付くことができましたが、もし画像以外に情報のないJPEG画像であれば確認することができないところでした。また、最近立て続けに患者名が入力されていない内視鏡のJPEG画像が持ち込まれました。その際は、主治医に紹介内容と画像を確認してもらい、紹介患者のデータで間違いのないであろうと判断し、画像サーバに取り込みましたが、いつも画像を見れば確認できるとは限りません。また多くの施設では、紹介患者の画像データを自院の画像サーバに取り込む作業をしているのは、医師ではなく放射線技師や事務職員と思われるので、十分な画像データの確認がされぬまま取り込まれてしまう危険性もゼロではありません。

そこで、大切なお願いです。病院間で画像データをやり取りする場合は、原則としてDICOM画像でCD作成するようにお願い致します。そしてもし、DICOM規格がない内視鏡画像でCD作成する場合は、必ず画面に患者さんの名前が入力されていることを確認してCD作成して下さい。お忙しい中ご面倒とは思いますが、万が一でも患者さんを間違っただけの画像データで診察することがないようにご留意お願い致します。

## 熊本地域医療センター勉強会のお知らせ

日時／2021年3月22日(月)  
19:00~20:00

会場／Web講演会

- ※COVID-19拡大に伴い、2月からは当面の間院内会場での直接参加を中止とし、Web講演会のみでの聴講とさせていただきます。状況が改善すれば院内会場への参加を再開する予定です。
- ※申し込み案内は熊本市医師会ニュースにてお知らせいたします。
- ※予定が変更になる場合がありますのでご注意ください。

### ①症例報告

「腹腔内穿破をきたし診断に苦慮した  
アメーバ性肝膿瘍の1例」  
外科 平尾 洗樹 医師

### ②特別講義

地域医療センター 回想録 (仮)  
消化器内科 山之内 健伯 医師

## 熊本地域医療センター

- 医師へ直接紹介される方はこちら  
**☎096-363-3311 (代表)**
- 何科に紹介するか迷っている場合はこちら  
※ベテラン看護師が対応いたします!  
(平日9:00~17:00) **☎096-372-0600**
- 画像診断・内視鏡などの検査予約はこちら(連携室)  
**☎096-366-1323**

### 編集後記

- Y コロナ禍が始まり早一年。それでも春は訪れました。緩和ケア病棟でも活躍された大平看護部長の退任の挨拶、歡送迎会も計画できないことも残念です。生涯教育講座の内容はご存じの当院の得意分野です。次年度も患者さんの紹介よろしく願います。
- K 春ですね。コロナ禍が始まり、夜の街へ1年間行かないまま終わりました…連携室のメンスが入籍します！お祝いでパーツと行ける日が、早く来るといいですね!(^^)!
- H ご紹介に預かりました連携室のメンスです。この度、今月末に入籍することとなりました！次年度もより一層精進してまいりますので、よろしくお願いいたします。